

2011年03月24日

平成22年度愛媛大学大学院学位記授与式式辞

本日ここに、多数の来賓の皆様のご臨席の下で、各研究科において所定の課程を修了し、学位審査に合格した皆さんに、学位記を授与させていただきました。

学位を授与された皆さんのこれまでの努力に対して深く敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。また、皆さんの日々の生活を支えてこられたご家族、関係の皆さんに感謝申し上げますとともに、心よりお慶び申し上げます。

新たに学位を授与された方は、博士の学位が26名、修士の学位が427名であります。また、大学院連合農学研究科においてはすでに3月17日に学位授与式が行われ16名が博士の学位を授与されています。

皆さんの中には、44名の社会人学生、12名の海外からの留学生が含まれています。社会人の場合には、勤め

先や家族の理解なしには大学院での修学は成し遂げられなかったでしょうし、ご本人の苦労も並大抵ではなかったと思います。また、留学生の場合は、言語や習慣の違いなどさまざまな面で苦労も多かったと思います。このような中で、困難を乗り越え、熱意をもって研究に励み、学位を取得されたことの喜びもひとしおと推察いたします。



皆さんの中には、すでに社会人として活躍されている方もおられますが、多くの方はこれから社会での活動が始まります。大学院課程で培った知識や技能がすぐに社会で役立つとは限りません。むしろ、すぐに役立つケースは多くないでしょう。しかし、これまでの学修や研究の過程で体得したものは長い人生の要所要所で役立つ時が来るものです。

皆さんが学位論文としてまとめ上げた研究成果や、それに関連して得た専門的な知識や情報はもちろん皆さんにとってかけがえのない宝物ですが、たとえ自覚していないとしても、皆さんが体得したものはそれよりはるかに大きな広がりや深さをもっています。真理に到達するための飽くなき探究心、努力すれば困難は乗り越えられるという自信、研究の過程で見いだした独自の工夫や方法、あるいは人と意見交換や議論することの有効性、組織的な活動のなかで培われたコミュニケーション力や人間関係を構築する力など、必ずし

も言葉では伝えられないような数々の知恵やノウハウはこれから社会で生きていく上で大きな財産になります。

今日、国内でも国際的にも社会の中で大きな変化が進行しています。その変化のひとつが産業社会から知識基盤社会への移行です。「20世紀に起こった本質的な変化のひとつは産業社会システムの中で、物質的資源という形の富が、価値の面でも意義の面でも重要性が低下し、頭脳のもつ力が優位になってきた」



とされています。知識基盤社会とは、「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会」のことです。ここでは、必然的に、グローバル化が進み、競争と技術革新が絶え間なく起こり、しばしば旧来の考え方の枠組みまで変化します。

このような急激に変化する時代においては、いま採用されているシステムやモデルはいずれ通用しなくなるという覚悟をもつことが必要です。これまでうまくいったからと言って従来のシステムに固執するのではなく、新しい変化とそれに見合った新しいシステムに適合する志向をもち、新しいタイプの社会をつくるという気概をもつことが、次の時代のリーダーとなる皆さんに求められています。

一方で、20世紀型の産業社会システムがもたらした負の遺産の克服もこれからの大きな課題です。発展途上のアジア地域に目を向けると、20世紀に我が国が経験して来た大量生産・大量廃棄による環境破壊が深刻な問題になっています。また改めて言うまでもなく、地球規模において温室効果ガスによる地球温暖化も深刻な問題になっています。

また、今回の東日本の大地震は、想像を絶する自然の破壊力を見せつけただけでなく、先進的な科学技術に依存している現代の産業社会システムの本質的な弱点をあらわにしました。たとえば、近年、地球温暖化防止やエネルギー安全保障への対応策として、原子力発電が見直され、世界各地で原子力発電の建設計画の動きがあります。この動きを関係者は原子力カルネサンス（原子力の復権）と言っていますが、今回の福島原発の事故は日本および世界のエネルギー政策について抜本的な見直しを迫ることになると予想されます。また、多数の部品からできている工業製品に関する高度な分業生産システムの脆弱さもあらわになりました。震災によって一部の部品工場が操業できなくなったため、その部品が調達できなくなり車などの製品が長期間製造できなくなるという事態が生じました。

このように今さまざまな課題が社会全体に山積し、また新たな課題が次から次と生じて

います。その意味において、私たちは歴史的な転換期の渦中にいると言ってよいでしょう。社会システムや産業構造が変化する時代にあっては、一人一人の総合的な力が試されます。逆に言えば、自分の能力を発揮できる機会がそれだけたくさんあるということでもあります。

皆さんは、このような難しい時代にあって、自分が活躍できる場を創造的に作り出し、たえず課題に挑戦していただきたいと思います。もちろん、その過程においていつも順風満帆というわけには行きません。時にはきびしい困難に直面することもあるでしょう。そのような時には、皆さんの母校である愛媛大学と連携して、困難を乗り越えられることを期待します。愛媛大学は皆さんにとっていつまでも信頼でき安心できる母港、母なる港、であるよう努めてまいります。

愛媛大学大学院で新たに学位を取得された皆さんの門出を祝うとともに、皆さんのこれからの活躍を祈念して、学位授与の式辞といたします。

平成 23 年 3 月 24 日 愛媛大学長 柳澤 康 信

